

# 浜

# 私

# 幼

公益社団法人 横浜市幼稚園協会 発行  
電話 045 (534) 8708  
<https://www.kids-yokohama.or.jp>



編集 横浜市幼稚園協会広報部  
発行者 清水 純也  
印刷所 グランド印刷株式会社

(公社) 横浜市幼稚園協会 協会報 No.283

加盟園保護者の皆さまへ



## 協会長からのご挨拶

公益社団法人横浜市幼稚園協会  
会長 清水 純也  
(認定こども園 泉ヶ丘幼稚園 園長)

2学期がスタートします。今年入園をされたお父さまの様子はいかがでしょう。また、進級して学年が変わったお父さまはいかがでしょう。まだ行き渋りや登園に戸惑う様子があるかもしれません。もしくはたとえ毎日元気に幼稚園や認定こども園に通っているように見えていても、ハードルを感じているかもしれません。それは、私たち大人でも同じだと思います。会社や部署が変わるような転機は、誰しもハードルを感じると思います。学生時代の“クラス替え”にはドキドキした経験があるはずで

す。子どもたちも同じです。初日から自分らしさを発揮出来る子もいれば、周りの様子をうかがいながら、じわじわと自分を解放していく子もいます。もしかすると何かハードルを感じているであろう我が子に保護者の方自身も不安に思いながらも、幼稚園・認定こども園へ登園できるよう背中を押して下さっているのかもしれません。各園の先生方に代わって感謝申し上げます。文部科学省が推進している国民運動『早寝早起き朝ごはん』の言葉はお馴染みですが、保護者の皆さまが登園時間に間に合うように毎日お父さまの身支度を一緒に整えて、園へ送り出してください。子どもたちの社会性＝園生活という営みを始めることができます。

毎日、お父さまは園という社会の中で揉まれているのです。家に帰った時には、ぜひ褒めて抱きしめて、お父さんに心の充電をお願いします。『いつでも私(僕)を見守ってくれている』きっとこの感覚が「明

日もがんばろう!』という気持ちにさせてくれると思っています。

一方、幼稚園・認定こども園の第一線で仕事をされる先生たちは、各家庭から来た子どもたちの心と身体を受け止めて日々の生活をしています。戸外遊びをしている時でも、歌を歌っている時でも、運動会の練習をしている時でも文部科学省の提唱する『幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿』を意識しながら子どもたちの何が今育っているのかを考えながら関わっています。これはとても労力がかかるものです。私は現場の先生方を誇りに思い、尊敬しています。

20年ほど前、友人に「お前は良いよな、子どもと遊んでいれば給料がもらえるんだから。」と言われたことを思い出すことがあります。その時は、笑ってごまかしましたが今ならばはっきり言えます!「遊びの中で子どもたちは様々なことを感じて学んで育っているんだ!生涯の人格の基礎を培う乳幼児期で、初めての集団生活の環境を整えることが、どれだけ大切で生涯に関わるのか働いてみて分かったんだ!」と。私たちは本気で目の前の子どもたちと共にあそび、学び合いながら大切な時間を過ごしています。

横浜市幼稚園協会としては、子ども・保護者・教職員の環境をより良いものにするため、保護者の会と連携し、乳幼児期の子どもの育ちを少しでも理解してくれる方を増やす努力をしまります。

# 令和4年度 横浜市幼稚園大会 未来に向かって育もう 豊かな心 子どもたちの笑顔



公益社団法人横浜市幼稚園協会と横浜市幼稚園保護者の会の共催により、令和4年度横浜市幼稚園大会が、「未来に向かって育もう 豊かな心 子どもたちの笑顔」をテーマに、6月29日（水）に横浜武道館で開催されました。開会に先立ち、進行役矢島幼稚園 矢島昭彦（総務部）よりコロナ禍のため、一般参加者を各園から3名までに制限したことやマスクを着用して大会を行うこと、またオンライン配信をすることの説明がありました。また、横浜市長、横浜市会議長より大会宛に生花のプレゼントがあり、大会参加者全員で拍手をもって感謝の意を表しました。

横浜さがみ幼稚園の先生方が事前録音した国歌・市歌が流れ始まった本大会には、来賓として、横浜市長 山中竹春様、横浜市会議長 清水富雄様をはじめ、横浜市会より自由民主党・無所属の会、公明党、立憲民主党、の各団長、こども青少年・教育委員会委員長、神奈川県私立幼稚園連合会会長、横浜市こども青少年局長をはじめ



めとしたこども青少年局の方々にご来場いただきました。また、川崎市幼稚園協会より祝電をいただき、大会の中で披露されました。

冒頭、清水純也会長より、「幼稚園協会には、横浜市の幼稚園・認定こども園の9割、249園が加盟しており、教職員は約7000人が所属しています。これが集まることにより、各園独自の教育をしながら、協会活動を推進することができます。今、子どもたちが減っている（少子化）、求職者が少ない（人材難）などの問題を抱えています。協会が一つとなって対策を練るとともに、各加盟園からの協会へのバックアップをお願いします。『未来に向かって育もう 豊かな心 子どもたちの笑顔』というテーマを実現するためには、たくさんの時間が必要かも知れません。そこで、私の知り得た情報を皆さんに伝え、また皆さんからの意見をたくさんいただいて、協会を運営していきたいと思っております」と挨拶がありました。

続いて、保護者の会 近江真依会長より、「コロナ禍の中でも子どもたちは成長しています。成長している子どもたちの笑顔、豊かな心を守ってほしいと思い、このテーマにしました。（行政に要望を伝えたことや父母セミナーの開催を述べた後、）保護者の会は幼稚園協会と連携しながら、地域社会への橋渡し役になりたいと思っております」と挨拶がありました。

その後、保護者の会 山本淑子副会長より大会宣言が提案され、拍手をもって採択され、あわせて令和4年度横浜市幼稚園保護者の会の役員が紹介されました。

5年、10年、15年、20年、25年以上の順で永年勤続表彰を行い、表彰者393名の内、来場された90名余りの教職員の方々がそれぞれのグループに分かれ登壇し、各グループの代表者が清水会長より賞状を受け取りました。



永年勤続表彰



市長表彰

引き続き行われた市長表彰では、15年、20年の教職員の方々が登壇し、山中竹春市長より代表者に賞状が渡されました。そして、山中市長より、「子どもたちが笑っている姿、笑顔でいる風景が、もっとも幸せな風景だと思っています。そうした子どもたちの笑顔をつくる横浜市にしたいと思います。この度、小学校との接続カリキュラムである横浜市架け橋プログラムが文科省から承認され、横浜市から発信していきます。また、横浜市独自の横浜市型預かり保育も209園で実施されています。日頃、先生方が子どもたちの成長を温かく支えてくださるからこそ、子どもたちの生きる力が育まれるのだと思います」と祝辞をいただきました。

さらに、清水富雄横浜市会議長より、「横浜市には、287園の幼稚園・認定こども園があり、47000人の子どもたちが通っています。そのすべてが私立であり、子どもたちの成長は皆さんに支えられています。幼稚園協会は日頃研修に励んでいることを承知しており、教育へ

の熱意に敬意をはらうとともに、市議会として取り組んでいきます」と祝辞をいただきました。

最後に、受表彰者を代表して、認定こども園やつはしキッズ・ハッ橋幼稚園 高田広子先生が、「新任の頃、丁寧に向き合って指導してくださった先輩方を思い出します。子どもたち、保護者の皆さん、家族の協力があったこと、また園長先生やたくさんの先生方との出会いに感謝致します」と謝辞を述べられ、幼稚園讃歌が流れ、閉会となりました。

幼稚園大会  
勤続永年表彰受賞者

勤続年数	人数
5年	194名
10年	106名
15年	43名
20年	28名
25年	15名
30年	4名
35年	2名
40年	1名
合計	393名



清水純也会長 挨拶



近江真依保護者の会会長 挨拶



山本淑子保護者の会副会長 大会宣言



山中竹春市長 祝辞



清水富雄議長 祝辞



高田広子教諭 謝辞

# 第1回横浜市幼稚園新規採用教員研修会

5月25日(水)  
南公会堂

横浜市こども青少年局保育・教育支援課 小泉 一美

令和4年5月25日(水)、「第1回横浜市幼稚園新規採用教員研修会」が開催されました。新規採用教員192名の活気や意欲が伝わり、とても実のある研修になったと感じます。

研修会の第1部は、採用2年目の教員3名に、1年を振り返った体験談を話していただきました。「自分らしく保育をすればいいと先輩の先生に言われて自分の保育を考えることができた」「支援の必要な園児に対して、信頼関係を築いていくまでの道のりから学んだ」「先輩からのアドバイスがとても心強かった」等、一年間の様々なエピソードを交えながら話していただきました。先輩



▲エールを送る先輩

と自分を比べてしまい、不安に感じたり、戸惑ったりしている新規採用教員の方々も、真剣に先輩の話に聞き入っていました。

## 先輩の話聞いての感想

思うようにいかないこと、分からないことがたくさんあり、毎日無事に終わることで必死です。先輩方の仕事の速さや、子どもたちのまとめ方を見て、自分は何でこんなにうまくいかないのかと、悩んでいました。しかし、先輩方のお話を聞いて、自分だけができないわけではなく、また一人で抱え込まず周りにももっと頼っていいんだということに気づきました。

クラスに手が出してしまう子がいたという先輩の話は、私が悩んでいる問題と似たことで、聞き入ってしまいました。「なんでたたいたの?」「いけないよ」など怒ったり、否定の言葉を使ったりしてしまう自分を嫌だなど感じていました。先輩の「プラスの感情に寄り添っていくと、子どもも言葉にして伝えてくれるようになった」と聞いて、他の場面で楽しい気もちやうれしい気もちに寄り添っていきたいと思いました。

日々保育を行っている「自分らしく」という考えがおろそかになり、つい一日やるべき事に追われてしまう自分がいるという事に話を聞いて気づき「自分らしい保育」について改めて考えるきっかけとなりました。

研修会の第2部は、グループディスカッションです。先輩の話や現在の悩みや不安感を打ち明けながら、お互いに励ましあ



▲積極的に語り合う先生方

い、共感しあい、自分だけが悩んでいたのではないことに安心感を得ると同時に緊張感もほぐれていくようなそんな雰囲気を感じました。

研修会第3部は玉川大学教授の田甫綾野先生をお迎えして「遊びを通して子どもとつながる」という演題でご講演いただきました。「遊びを理解することは子どもを



▲田甫先生の温かいメッセージ

理解するということが難しいが、遊びというまとまりで捉えると見えやすくなる」「そのためには環境構成が重要である」など、新採用の方々へのアドバイスや応援メッセージがたくさん込められた温かいご講演でした。

## 田甫先生の話聞いた感想

子どもにとって遊びの環境がどれだけ大切か改めて強く感じました。幼稚園では、毎日集団行動をしている中で、一人ひとりのやりたい遊びをどれだけ尊重してあげるかが、子どもにとって楽しい遊びになるポイントになると思いました。

「全体を見ると、個々を見ることができない」という学生時代からの悩みがありました。今回の研修で「環境作り」が大切だということが分かり、この悩みを解決しました。遊びのブースを作ることによって、バラバラになってしまう子どもを、まとめることができるのだと理解しました。子どもたちが自らやりたいと興味をもてるような内容を部屋の配置を考えながら、提案していきたいと思います。

遊びとして捉えるという話がとても印象に残りました。保育室内や園庭のマップを描いて、そこにどんな遊びがあったかを書き込んでいくという方法は、自分の頭の中も整理しやすくなると思います。自分なりの工夫を加えながら実践してみたいです。

今回の研修で学んだことを大切にしながら、さらに学びを深めていただけることを期待しています。



## 幼稚園に安心して1歩を踏み出すための 地域からの応援を…



港北区地域子育て支援拠点 NPO 法人びーのびーの施設長 一般社団法人ラシク 045 代表理事 原 美紀

横浜市各区に1ヶ所ずつ整備されてきた地域子育て支援拠点が各区の特性を生かしつつ、様々な場所で開かれています。対象は0～6歳児までの未就学児対応施設として、①遊びの交流ひろば②子育て相談③情報収集と発信④ネットワーク⑤人材育成⑥子育てサポートシステム(全国的にはファミリーサポート)⑦利用者支援横浜子育てパートナー(相談専任職員配置)とどの拠点でも7つの機能を持って活動しています。港北区と旭区においては新たに一時預かり事業も行っています。

どの拠点も無料で概ね9時半～16時を開館。いつ来ていつ帰ってもよく、土日どちらか開かれています。平均、年間3万家庭くらいが利用しています。就労家庭が増えてきたことで平均利用年齢は0～1歳児が8割、就園前の家庭が妊娠前から切れ目なく地域での関係性を作れる出会いや、親子分離できるための準備、応援をするために一助になることも期待されています。

2006年、港北区の地域子育て支援拠点どろっぷがモデル事業として開所してから17年。当時赤ちゃんとして親と一緒に通ってきた子どもたちは中高校生になっています。思春期になって子どもを持つことへの肯定感がどの程度培われるかは未知数ですが、これからますます少子化になっていく中で、子どものいる生活の具体的なイメージを持つために、地域での子育て支援は日々親子を支えるばかりでなく、こうした次世代に向けての発信にも大きな役割があることを感じます。「福祉と教育の連携」を地域の人を巻き込んで継続的に実施していく仕組みはここ数年だいぶ横浜市内に増えました。地元の公立中学校や公・私立高校など日常的な交流では地区の民生委員・主任児童委員・PTAなどの力を借りて、学校と拠点を時に生徒が、時に乳幼児を連れた家庭が往来します。5ヶ月の子の大泣きする姿を一生懸命あやすクラスの生徒たち、生えてきたばかりの乳歯を見せると「ちっちゃ

～い!」と叫びます。高校生は赤ちゃんを恐る恐る抱っこしますがその脇で母たちが横抱っこの仕方を教えています。産んだばかりの母たちも「誰かに教える」という経験は産



後ずっと育児のノウハウを専門職や親から教えてもらってきた立場からするとより生き生きしてくるようです。



個別支援学級の教室に招待された親子や妊婦さんたち

こうしたふれあい体験事業のプログラムをきっかけに通学時やまちのスーパーなどで生徒が親子と合うと声をかけあい、子どもが生徒に駆け寄るような様子も聞かれます。

引っ越してきたばかりの地での初めての子育て。選挙の時や防災訓練時しか足を踏み入れない地域の学校に、親子が招かれて体育祭に顔出しして応援したり、生徒が拠点のひろばに放課後にふらっと寄って絵本を読んだりおもちゃづくりをして遊んでいたりしています。赤ちゃんの親たちも学童期思春期の生徒の姿を見て、我が子の成長のその先を見つめているようです。そして確実にきょうだい児や多胎児を見守る役としてもちょっと大きいお兄ちゃんお姉ちゃん的存在に母たちは助けられたりもしています。

自分の生まれ育った地で子育てできないいわゆる「アウェイ育児」がこの横浜市では8割と言われています。親子を孤立させない、「アウェイ」を「ホーム」に変えられる働きかけが早期に必要です。そのためには親の帰属のない浮遊感が子育ての不安感に繋がっているとしたら、交流や出会いは決して自然にもたらされるという環境ではない昨今、その機会を接続、創生する中間支援が必要です。マンションや戸建てで一人暮らしの高齢者も日常的に通って来ては赤ちゃんをあやし活力をもらい、親たちも自らの親のサポートを得られない中、年配の人たちの経験談や差し伸べてくれる手を頼りに信頼関係を築いていきます。こうした乳幼児時期の心の安定根を地域に張らせてのち、就園していけるよう地域側から親子の新たなステージへの踏み出しを応援していきたいと思っています。

横浜市 地域子育て支援拠点をみてみよう!



# こころの根っこをしっかりと張って

横浜市幼稚園協会 子育て相談室 相談員 鈴木 由美子

2学期が始まりましたね。

夏の間にごんと成長した子供たちの元気な声が幼稚園に響いていることでしょう。

コロナ禍が続いていて、なかなか思うように出かけたり、人に会ったりもしにくい中でも、ご家族で楽しい時間を過ごせるよういろいろ工夫されたことと思います。

子どもたちが社会人になるときは今の世の中とはずいぶん違っていることでしょう。

環境の変化に柔軟に対応して自分の力を発揮していくためには、知識だけでなくしっかりした心の土台が必要です。

幼児期はその土台を作る大切な時です。心の根っこをしっかりと地に張って、養分を吸収し将来大きく育つための準備をします。挫折のない人生などないですね。挫折したときにも、また立ち上がるように、しっかりと根っこを張っていきます。

こころの根っこって何でしょうか。

第一は心理学で基本的信頼感といわれるものです。



この世に生きていくうえで一番大切な土台になります。

「自分は愛されている」という、育ててくれる人への信頼、「愛されるに値する自分である、自分には伸びていく力がある」という自分自身への信頼、そして「自分はこの世の中に居場所がある、この世の中に生きていくことは楽しい！」という世の中への信頼。

このような自信が、まだ言葉もしゃべれない生まれたてから、毎日お世話をしてもらい、かわいがって育ててもらっているうちに心の奥底に刻み込まれます。根拠のない自信といわれるものです。足が速いからすごいでしょ！といった根拠のある自信はもっと足の速い人に出会ったときに崩れてしまうでしょう。でも、とにかくかわいがって育ててもらったことで心に培われた自信は一生ものです。

第二は、非認知能力という言葉で研究されているものです。

社会の中で自分らしく生きぬいていくために必要な力です。

想像力、創意工夫する力、探求心や表現力、協調性、思いやり、意欲、積極性、乗り越える力、粘り強さなど、眼には見えないけれど大切な力です。

子ども達は夢中になって遊ぶ中でこういう力を育てていきます。

知識を組み合わせる考えたり判断したりあるいは計算したりといった認知能力といわれるものは、豊かな体験からの学びが土台となっています。

「不思議と思う心」に導かれて子ども自身が感じ、体験して学んでいくことが、将来の学業の基礎になります。脳細胞のネットワークは、子ども自身が楽しいと思っているとどんどん活発になって、新しいことを吸収していきますが、押し付けられたものはすぐ忘れていくことがわかってきています。

幼稚園時代は五感を十分に使って、心を動かしながら、体で学んでいく時代です。

環境を通じた教育の時期といわれています。ここで豊かな体験をたくさんして、体を育て、器用な手を育て、集中力を育てていきます。

これなんだろう？アリの行列を見てしゃがみ込んでみます。触るのは怖いので棒でつついてみたりします。ダンゴムシも、丸くなるのが面白く花壇の中を探してみます。見つけたらうれしくて、お友達に見せたりします。

年長さんがやっていることを自分もやってみたくありません。どうすればあんな泥団子ができるんだろう？逆上がりやってみよう！お花をつぶすと色が出るよ！憧れの心が子どもを導いていきます。子ども自身がやりたいと思ったことを十分にやらせてあげられる時間があるのは幼稚園時代だけかもしれませんね。

幼稚園の集団にはいろいろなお友さんがいて、得意不得意もいろいろです。それぞれが、自分の得意を伸ばし、他の子に「すごい！」といわれるように育っていきます。

学校の一律の評価ではなく、それぞれが個性を伸ばすことで評価される素敵な時代です。お友達とのかかわりの中で、教えたり教えられたりしながら育っていきます。

子どもたちの素敵な未来のために、夢中になって遊ぶ時間をたくさん用意してあげたいと思います。子ども時代にたっぷりお友達と遊びこむことが、社会性を育み頑張る力も育てていきやがて社会で活躍する人材へと育っていく礎になるはずですよ。

「遊びこそが豊かな学び」という本もあります。知識は後からで十分間に合います。夢中になって遊んでいる子どもたちの笑顔をどうぞ大切に育ててあげてくださいね。



# 子育て 相談員への

# Q&A



横浜市幼稚園協会では、園児の保護者向けに電話による子育て相談をしています。

どうやって、利用すればよいのか  
どんなご相談が多いのか など  
相談員さんに聞いてみました。どうぞお気軽にご利用ください。

**Q** 緊張して電話をする勇気がありません

**A** 優しい女性がお電話を取ります。ご安心ください。うまく悩みが伝えられないというご心配はいりません。相談員とお話ししていくうちに、整理されていきますから。

**Q** 些細な悩みでも連絡をして良いのですか？

**A** もちろんです！  
ちょっとしたことでも、誰かに聞いてもらうだけで楽になるときがありますよね。  
お電話おまちしています。

**Q** 匿名で聞いてもらえますか？

**A** はい。原則匿名です。

**Q** 相談にのってくれる人は、どんな方ですか？

**A** 相談員は全員女性です。  
公認心理師という国家資格と臨床心理士の資格を持っている相談のプロです。  
子育てもしているので、お母さんの立場と専門家の立場の両方から、お話を伺うことができます。

**Q** 継続的に相談にのってくれますか？

**A** 残念ながら匿名でお受けしていますので、継続相談にはなりにくいですが。  
継続相談が必要であれば、わかる範囲でご紹介することはできます。  
ただ、何度もかけていただくのは大丈夫なので、心配事が起きるたびにかけくださる方もあるようです。

**Q** メールやLINEで相談はできませんか？

**A** 現在、検討中です。  
どのような形になるかは、横浜市幼稚園協会のホームページ上でお知らせできると思います。ご期待ください。

**Q** 時間の予約をとることはできますか？

**A** 可能です。  
下のQRコードよりお進みいただき、カレンダーから希望の日時を選択してください。

**Q** どんな相談が多いですか？

**A** 年度初めや長い休み明けなどは、幼稚園に行きたがらない、朝の支度が遅いなどのご相談が増えます。年間通してみると、家庭での接し方、しつけ方と幼稚園での心配事で次のようなものが多いようです。

家庭でお子さんとどう関わればよいかという面では、癇癪が激しい、いうことを聞かない、偏食、食事中うろうろする、兄弟喧嘩、赤ちゃん返り、トイレトレーニング、言葉が遅い気がする、癖が気になる（指しゃぶり、チックなど）、性格が気になる（神経質、不安が強いなど）、お稽古ごとについてなどなど。

幼稚園生活でのご心配としては、お弁当や給食について、友達同士の関係、集団生活になじめるか、ほかのお子さんとは違ってしまって心配になった、幼稚園から指摘された、などなど。

## 🌸 相談員からのメッセージ

初めての子育てはわからないことだらけ、こんなこときいてもいいの？と思わずどうぞ気軽にお電話ください。一緒に考えていきたいと思えます。

## 子育て相談室

相談日

毎週火曜日・金曜日  
(年末年始、祝祭日を除く)

受付時間

10時～12時  
13時～15時



ホームページがリニューアルされて、  
ネット予約ができるようになりました！

公益社団法人 横浜市幼稚園協会



# 令和4年度 父母セミナーのご案内

**日時** 令和4年9月9日(金)  
午前10時10分～12時  
(受付9時50分～)

**会場** 港北公会堂  
横浜市港北区大豆戸町 26-1

**テーマ** ワンプレートで  
栄養フルコースの作り方

**講師** 村野 明子氏

- ・スポーツ料理研究家
- ・プロアスリートチーム寮母
- ・株式会社 SundayMonday 代表



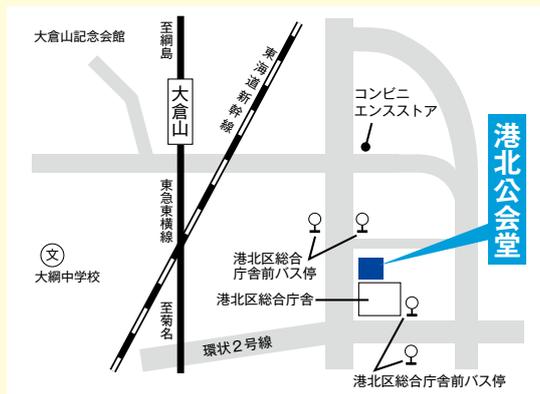
## <申込みフォーム>

<https://forms.gle/sUEwKSmWGeVqrgsr9>

- ・QRコードからお申込み頂けます。
- ・座席数の関係で、定員は500名となります。
- ・お申込みは、1人につき1回ご回答ください。申込みフォームは、参加者の人数を把握するためのものですので、氏名などの情報はご入力いたしません。



## <港北公会堂アクセス>



## 令和4年度 保護者の会役員 ご挨拶



**会長** 近江 真依  
(平和幼稚園)

未来ある子供達が健やかに安心して過ごせるよう活動して参ります。ご協力お願い致します。



**副会長** 大塚 秀子  
(横浜学院幼稚園)

初めてこのような重責を担う事になり不安ではありますが、まだまだ大変な状況の中、子供達の為に精一杯努めさせて頂きます。1年間宜しくお願い致します。



**副会長** 山本 淑子  
(認定こども園 峯岡幼稚園)

子ども達の過ごす環境が幸せと希望に溢れた日々になるよう願って、そして保護者の皆様にとって子育て環境がより良いものとなるようお願い、1年間しっかりと務めさせて頂きたいと思っております。



**監事** 柳衛 祐子  
(光明幼稚園)

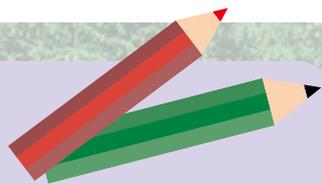
今年度、監事をつとめます。私自身学ぶことも多く、皆さんと協力しながら1年間活動していきたいと思っております。よろしくお願い致します。



**会計** 樽本 万里子  
(ばらの幼稚園)

市内の色々な幼稚園のママさん達と知り合う事が出来、楽しく活動しております。色々なことを吸収する1年にしたいです！

## 編集後記



9月に入りまだまだ残暑厳しい日々が続いています。

令和4年度に入り、皆様の幼稚園・認定こども園におかれましても、with コロナのもと一年間を通した行事などの活動について、様々な工夫をされながら開催されていることと拝察いたします。また、近年、温暖化による異常気象などの影響も多くなり、熱中症対策はもとより、突然の気候変動にも対応が必要になり、自然災害に対する防災体制の必要性も日に日に増しているように思われます。皆様の園を取り巻く環境が変化する中で、上記のような園での活動や対策等についても、広報部が皆様と情報共有できる場として少しでも役立つことが出来ればと思います。

皆様の園での新たな取り組みや活動などをお知らせできれば幸いです。

(広報部 関東幼稚園 粉山英人)